

2007 年度

科目名 哲学 A	対象学科・学年 文学部日文 1 回生 文学部英米 1 回生 文学部文財 1 回生 人間人社 1 回生	担当者 池田 清
授業テーマ 写真 映画 トラウマ 欲望 そして無意識		
授業の概要と目標 街にあふれるポスターを見たり、ドラマや映画を観るとき、何が起きているのでしょうか。例えば、新しい商品を欲しくなったり、登場人物に同情して泣いたり、怒ったりします。つまり、メーカーが買って欲しいものや、監督が泣いたり怒ったりして欲しいことに、われわれは反応してしまいます。私の「～したい」という欲望は、私以外の他者の欲望によって自由に操られているということです。私の欲望と他者の欲望はどういう関係にあるのか、これを知ることが授業の概要であり、目標です。		
評価方法 出席、本試験から総合的に評価します。		
テキスト テキストは使用しません。適宜資料を配布しますが、講義ノート中心です。	著者	出版社
参考書 授業中、その都度指示します。	著者	出版社
授業スケジュール・内容 【哲学 A】 I 見ることの複雑性 ― 何を見ているのか、誰が見ているのか II 映像を見る／見せられる私 ― 映像を見るとはどういうことなのか III 私の居場所 ― 私はどこにいるのか 【哲学 B】 IV 他者の居場所 ― 他者はどこにいるのか V 夢を見る／見せられる私 ― 私が出会うのは、私の分身だけなのか VI 映像と言語 ― 他者＝友人と話しているとき、何が起きているのか VII 言語の介入 ― 言葉を話すとはどういうことなのか ◎ 哲学は、訳の分からない難しい＝理屈でもなければ、現実離れた抽象的な言葉遊びでもありません。実は、日常生活の中で「どういう意味何やろ?」、「何でなんやろ?」と思った時に、もうすでに哲学の世界に一歩足を踏み入れているのです。 われわれは、映画を見たり、写真を見たり、また夢を見たりしていますが、こうした日常的な経験の中で何が起きているのでしょうか。何で、ドラマを観て、泣いてしまうのでしょうか。授業では、映画や写真などの映像を見るということは、どういう経験なのかを問題にしながら、その経験を可能にしている様々な要因を洗い出し、くわえて、これまでの哲学史上のテーマ・考え方・概念などを紹介していきます。 その場合、重要なのは、自分自身の日常生活に疑問を抱くことです。この日常生活への反省からすべてが始まります。 哲学の授業を有意義かつ面白いものにできるかどうかは、皆さんにかかっています。積極的に授業に参加して下さい。		